第 222 回木曜会「馬堀海岸、観音崎へ」　豆知識

１）うみかぜの路

JR 横須賀駅から観音崎までの約 10 kmの海辺の道を「うみかぜの路」といいます。ヴェルニー公園、三笠公園、うみかぜ公園、海辺つり公園、県立観音崎公園の 5 つの公園を結んだ遊歩道です。大津から馬堀海岸までの区間は、東京湾を行き交う船を眺めながら散策できる遊歩道が続います。晴れた日には、ベイブリッジやランドマークタワー、遠く富士山を望むこともできます。たくさんの大きな石が埋め込まれているのは、住宅地を水害から守るために、遊歩道全体が国内初の面的防護による高潮対策の護岸となっているからです。2006 年 10 月には、「水辺のユニバーサルデザイン大賞」を受賞しています。

２）走水（はしりみず）水源地

走水は横須賀水道の始まりの水源地です。降水後約 20 年を経て湧き出る水は、カルシウムなどを多量に含み、おいしいことで有名です。水源地は桜の名所でもあり、青い海を背景に咲く桜は見事です。開花時期(3 月下旬～4 月上旬)には、花見客に一般公開されます。明治 9 年(1876 年)、横須賀造船所のフランス人技師ヴェルニーは、走水の豊富な湧水を利用し造船所の用水を確保するため、約 7km の水道管を敷設しました。
馬堀小学校と伊勢町との間にある二つのトンネルは水道管を通すために作られたものです。この他、水源地の山際にある、明治 35 年(1092 年)作られた赤レンガの貯水池など、歴史を感じさせる建造物があります。

３）走水と日本武尊（やまとたけるのみこと）の伝説

大和朝廷の時代、上総(千葉県)に渡り、東北地方に至る、古東海道の要所であった走水の海には、古事記や日本書紀に記された日本武尊と弟橘媛(おとたちばなひめ)の伝説が残っています。第 12 代景行天皇の皇子、日本武尊が東征のため上総へ向かうとき、海が荒れて船が沈みそうになりました。妃の弟橘媛は、海神の怒りを鎮めるため、海に身を投じました。すると、荒れ狂っていた海は静まり、日本武尊は上総の国に上陸することができました。この伝説にゆかりのあるスポットが御所ヶ関です。

４）御所ヶ関（ごしょがせき）(旗山崎)

走水漁港から海に突き出している小さな岬があります。日本武尊がここから上総に渡ったといわれ、仮の御所を設け、軍旗を立てたことから御所ヶ関、旗山崎と呼ばれたと伝えられています。現在、立ち入り禁止ですが、かつては弟橘媛を祀る橘神社がありました。弟橘媛が海に身を投じた 7 日後に妃のお櫛が浜に漂着し、村人は旗山に御陵を造りその櫛を納めたと伝えられています。その後御

所ヶ関には江戸幕府によって台場が築かれ、明治政府によって軍用地とし買収されたときに橘神社は走水神社に移されました。

５）走水神社

村民が日本武尊より賜った「冠」を石櫃(いしひつ)に納め、その上に社殿を建て日本武尊を祀ったことが走水神社の始まりだと伝えられています。弟橘媛が海に身を投じた際に詠んだ歌は、明治 43 年(1910 年)に歌碑として走水神社の境内に建碑され、除幕式に東郷平八郎、乃木希典も列席しました。

６）観音崎ボードウォーク

リゾート感たっぷり！南国ムードを味わいながら散歩ができる、約 600m の遊歩道です。とても綺麗に整備されたこの遊歩道は観音崎京急ホテルの裏からつづいており、景色はばつぐん。貨物船やタンカーなど大型船が多く通るので、それらの船をボーっと眺めるだけでも楽しめます。

６）観音崎灯台

日本最初の洋式灯台として明治元年(1868 年)に起工し、翌年 1 月 1 日に点灯しました。

起工日が日本の灯台記念日(11 月 1 日)となっています。当初の灯台はれんが(横須賀製鉄所で製造)を用いた四角形の建物で、フランス人技師ヴェルニーが幕府に依頼され設計しました。現在の灯台は 3 代目です。

映画「喜びも悲しみも幾歳月」(1957 年)のロケ地としても知られています。